

めあて ぶん かくしゆうした ひらがなや な かつ ことば いろいろな ことば や ぶん 文を かこう かこう。

一 いち つぎの えを み みて、ひらがなの ことば を か きま しょう しょう。

1 な



2 が



3 み



4 き

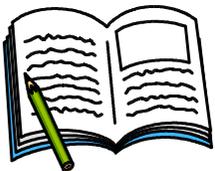


二 に つぎの えを み みて、かたかなの ことば を か きま しょう しょう。

1 ぴ



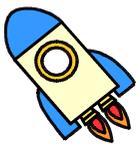
2 ぽ



3 け



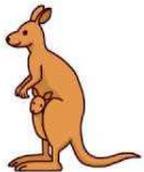
4 け



5 ラ



6 カ



※つぎの ページにも もんだいが あります。

三 ^{さん} の なかに 「へ」 か、「を」 を ^{ただ} 入れて、正しい ^{ぶん} 文を つくりましょう。

1 ぼくは、おみせ いきました。

2 そして、おかあさんとやきいも たべました。

四 ^{よん} つぎの えを ^{ぶん} みて、文を かきましょう。うすい ^じ 字の ^{なぞ} ところは なぞりましょう。

1

ほ	
ど	わ
	し
わ	は
た	い
り	お
	だ
た	ん



2

ま	ぼ
し	
た	は
。	い
	ボ
	を
	け



3

と	
サ	わ
	は
を	い
し	と
ま	も
し	だ
た	ち



めあて 二つのものちがいがつたわるように、ひょうのことはをつかって文しよを書こう。

一 大石さんは、二つのものをくらべ、分かったことをひょうや文しよに書きました。
【大石さんの ひょう】と【大石さんの 文しよ】を見て、あとの問題にこたえましょう。

【大石さんの ひょう】

	りんご	なし
①	あかいろ 赤色	うすい みどり色
かたち 形	まる 丸い	まる 丸い
②	なしと同じ	りんごと同じ
食べ方	かわをむいて、 食べる	かわをむいて、 食べる

【大石さんの 文しよ】

ぼくは、りんごとなしをくらべました。
同じところは、三つあります。どちらも丸い形です。大きさは同じくらいです。どちらもかわをむいて、食べます。ちがうところは、色です。りんごは赤いけれど、なしは、うすいみどり色です。

「同じ」ところ、ちがう「ところ」より (平成二十七年 東京書籍)

1 【大石さんの ひょう】の①、②には、何をくらべたのかが分かることばが入ります。
【大石さんの 文しよ】の中のことばをつかって、書きましょう。

①

②

※つぎのページにも、問題があります。

二 つぎの文しようを読んで、あとの問題にこたえましょう。

まほうの ぬの 「ふろしき」

ふろしきは、いろいろな 形や 大きさの ものを つつんで はこぶ ことが できます。丸くて 大きな すいかも、四角い はこも、細ながい びんも、どれも うまく つつむ ことが できます。つつむ ものに あわせて、ぬのを おすぶ ことが できるからです。 また、ふろしきは、どこにでも もちあるく ことが できます。小さく おりたたむ ことが できるからです。 さらに、ふろしきは、くりかえし つかう ことが できます。スーパーマーケットの ふくろや 紙の ふくろと くらべると、やぶれにくいからです。 このように、ふろしきは、とても べんりな ものです。 ふろしきは、まるで まほうの ぬののようです。

「ふろしきは、どんな ぬの」より（平成二十七年 度 東京書籍）

1 なぜ、ふろしきは、くりかえしつかうことができるのですか。そのりゆうを文しようから六字で書きぬきましょう。

から。

めあて 学しゆうした漢字を讀んだり書いたりできるようにしよう。

三 次の 線部の漢字の正しい読み方を、ひらがなで書きましょう。

1 雪がふる。

2 家を出る。

3 本を読む。

4 鳥がとぶ。

5 道を歩く。

5	4	3	2	1

四 次の 線部のカタカナを、漢字で書きましょう。

1 ヒダリをむく。

2 ミズをのむ。

3 アメがふる。

4 ハナがさく。

5 シロくひかる。

5	4	3	2	1

めあて 中心となる語や文をとらえて内容を整理しよう。

一 次の文章は、もうどう犬の訓練の様子を書いた文章の一部です。この文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

使っている人にとってきけんな命令には、したがないことも教えられます。たとえば、自動車が走ってくる所で、わざと「ゴー」(進め)と命令し、命令どおりに進むと自動車とぶつかりそうになるという訓練をします。このような訓練をくり返して、あぶないときは、「ゴー」と言われても、前へ進まないことをおぼえるのです。

訓練を通して、もうどう犬にふさわしい心がまえも身につけていきます。

もうどう犬は、たくさんの人がいそがしく動き回っている町で仕事をします。そこでは、いろんなことに出会います。□、どんなことがあっても、おこ

ったり、ほえたり、あべれたりしてはいけません。また、仕事中は、人にあまえたり、じゃれたり、おいしそうなにおいのする方に行こうとしたりしてはいけません。さらに、ほかの犬がほえても、気にしないこともひつようです。

こうした訓練は、約三か月から半年かかります。さらに仕上げの一个月は、実さいにもうどう犬を使う人といっしょに生活し、いっしょに町を歩く練習をします。

吉原順平 「もうどう犬の訓練」より (平成二十七年 東京書籍)

1 文章中の□に入るふさわしい言葉を、次のアからエまでの中から一つえらんで、記号を書きましよう。

- ア では
- イ しかし
- ウ やがて
- エ また

※次のページにも問題があります。

めあて 目的に応じて引用したり要約したりしよう。

一 次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

日本では、くらしの基本である「衣食住」のどれにも、「和」と「洋」が入りまじっています。「衣」には和服と洋服があり、「食」には和食と洋食があり、「住」には和室と洋室があります。「和」は、伝統的な日本の文化にもとづくもので、「洋」は、主として欧米の文化から取り入れたものを指します。

ここでは、「衣食住」の中の「住」を取り上げ、日本のくらしの中で「和」と「洋」それぞれの良さがどのように生かされているか、考えてみましょう。

～(中略)～

まず、それぞれの部屋の中ですぐすときのことを考えてみましょう。

わたしたちが和室ですぐすとき、ざぶとんをしくかしかないかは別に、たたみの上に直接すわります。それに対して、洋室では、いすにこしかけてすわるのがふつうです。

和室、洋室での過ごし方には、それぞれどんな良さがあるのでしょうか。

和室のたたみの上では、いろいろなしせいをとることができます。きちんとした場では正ぎをし、くつろぐときにはひぎをくずしたり、あぐらをかいたりしてすわります。ねころぶこともできます。

人と人との間かくが自由に変えられるのもたたみの良さです。相手が親しければ近づいて話し、目上の人の場合は少しはなれて話すというように、自然にきよりの調節ができます。また、たたみの場合には、多少人数が多くても、間をつめればみんながすわれます。

洋室で使ういすには、いろいろな種類があります。くつろぐ、勉強をするなど、それぞれの目的に合わせてしせいがとれるように、形がくふうされています。ですから、長時間同じしせいですわっていても、つかれが少なくてすみます。

いすにすわっているじょうたいから、次の動作にうつるのがかん単であることも、いすの良さは、体の重みを前方にうつし、こしをうかせれば立ち上がれます。上半身の移動もわずかです。

「くらしの中の和と洋」より(平成二十三年度 東京書籍)

※次のページにも問題があります。

1 「和室と洋室での過ごし方」について、文章を引用して自分の考えを、次のようにまとめました。

① と ② に入る部分を文章から書きぬきましょう。

一 和室と洋室での過ごし方について
和室と洋室、それぞれの部屋での過ごし方の良さについてしようかいたします。
(〽和室の過ごし方のまとめはしよう略りやくしています。〽)
それに対して、洋室の良さについては、①、「いすにすわっているじょうたいから、次の動作にうつるのがかん単であることも、いすの良さは、のべられています。つまり、しせいと②へうつることについて、良さを説明しています。わたしのけいけんでも、物を取るときには、こしをうかせるだけで手とどくので、テーブルのある洋室のほうがよいと思います。

※引用する部分は、かぎ(「」)でくくります。

①

「

」

②

めあて 学習した漢字を読んだり書いたりできるようにしよう。

二 次の——線部の漢字の正しい読み方を、ひらがなでいいねいに書きましょう。

1 家を建てる。

2 円の半径。

3 希望がかなう。

4 試合を静観する。

5 辞典で調べる。

三 次の——線部のカタカナを、漢字でいいねいに書きましょう。

1 モンダイシユウを買う。

2 本をセイリする。

3 カンソウブンを書く。

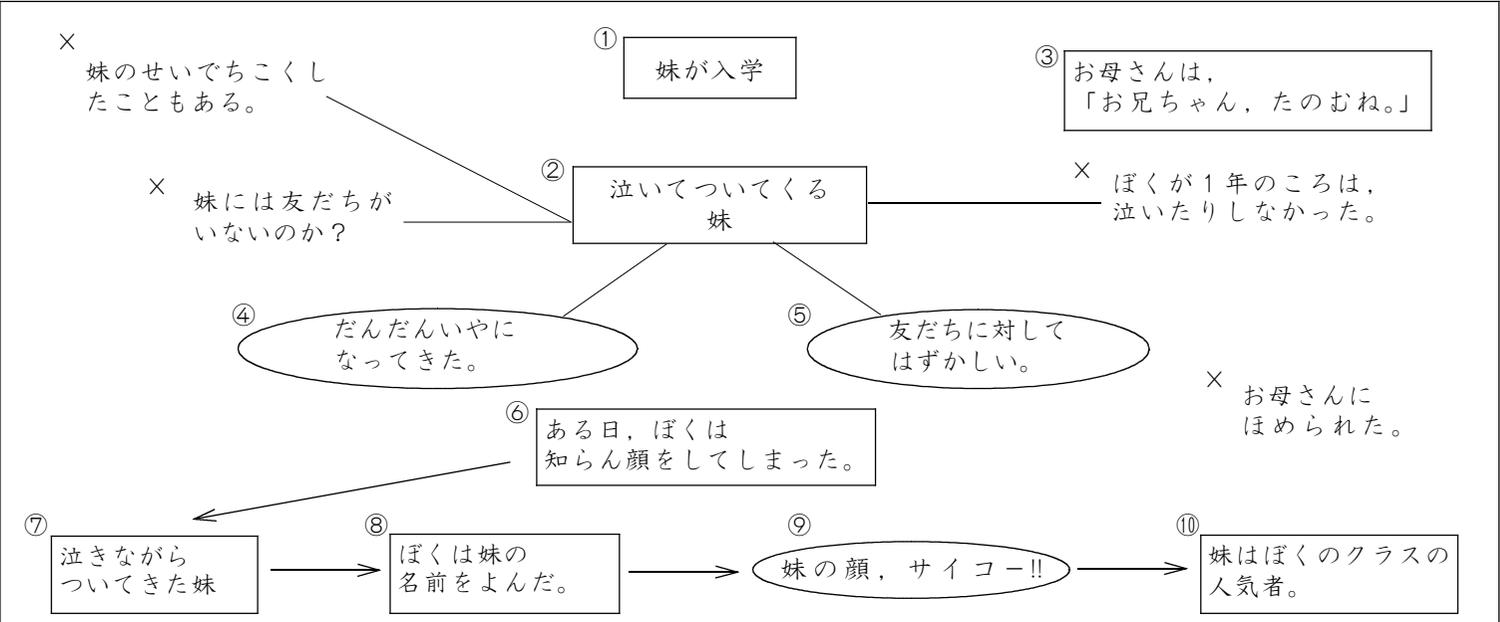
4 きゅう食をクバる。

5 先をイソぐ。

めあて メモを生かして、伝えたい事柄を分かりやすく表現する構成を考えよう。

一 齋藤さんは、家族との心に残った出来事を先生や友だちに伝えるために、文章を書いていきます。次のメモや文章を読み、あとの問題に答えましょう。

【齋藤さんのメモ】



上のメモをもとに、齋藤さんの書いた文章です。(前半は、省略しています。)

妹よ、泣かないで 齋藤 司

しかし何日めかに、ぼくは、いつも泣いてついてくる妹がいやになりました。友だちに、
「またついてくるで。」
と言われると、よけいにはらがたって、(たまには一人で教室に行け。)と心の中で思いました。そして、泣いている妹に知らん顔をしてしまいました。

でも、妹は泣きながらついてきました。階段を上がって、しばらくしてふり向くと、妹がいません。ぼくは急に、自分がいやなお兄ちゃんになっていたように思っ、すぐ後もどりました。泣きながら教室の方に歩いていく妹が、少しかわいそうで、「あずさ。」

とよびました。ぼくの声にうれしそうにふり向いた妹の顔は最高でした。
今では元気に、泣かずに学校に行っている妹です。このごろは妹のほうから、休み時間になるとぼくの教室に来ます。
(何かあったのかな。)とっていると、ここにこしながら、
「お兄ちゃん。」
と言う声に、ほっとします。

妹は、今ではぼくのクラスの人気者だ。

提供 公益社団法人「小さな親切運動本部」「人との関わりの中で」より(平成二十七年 三省堂) ※次のページにも問題があります。

1 齋藤さんの文章の——の部分、①から⑩のどのメモを使って書いていますか。
当てはまる番号を二つ書きましょう。

2 齋藤さんの文章を読んだ原さんは、~~~~~の部分の書き方についてアドバイスをしようと考えました。
~~~~~に当てはまる言葉を書きましょう。

【原さんのアドバイス】

という所は、

に直した方が

いいと思うよ。

めあて 学習した漢字を読んだり書いたりできるようにしよう。

二 次の——線部の漢字の正しい読み方を、ひらがなでいねいに書きましょう。

1 家族に感謝する。

2 規則を守る。

3 正しい判断をする。

4 火が燃える。

5 料理の準備をする。

三 次の——線部のカタカナを、漢字でいねいに書きましょう。

1 キボウをもつ。

2 ホウタイをもらう。

3 紙をインサツする。

4 明かりをテらす。

5 シオを送る。

めあて 投書を読み比べ、文章に表れている書き手の工夫について読もう。

一 次は、北野さんの家ととっている新聞の投書です。二つを読み比べて、あとの問題に答えましょう。

投書①(6月15日朝刊)

会社員 加東 真治 34

(さいたま市緑区)

昨日、テレビで高校野球の試合を見ていたら、投球数が200球をこえたにもかかわらず、ピッチャーは交代しないで投げ続けていた。勝つことだけを考えて、体に負担をかけ続けると、かたやひじをこわしてしまうのではないだろうか。

体に無理な負担をかけてまでスポーツをすることは、と第一の理由は、スポーツを通して健康な体や心を育てるとい

う、スポーツの目的に反するからだ。体や心の健康には、仲間と楽しく、適度な運動量で行うことが大切だ。スポーツをして逆に体をこわしては、

第二の理由は、特に成長期の若者の場合、体がまだ十分に発達していないので、かたやひじ、ひざなどに負担がかかり、体をこわしやす

いから、一度体をこわすと、その後スポーツを続けられなくな

る。わたし自身、中学校時代にサッカーをしていたが、や

りすぎてひざをこわしてしまい、以後、部活動が続けられなくなった。

勝つためには限界をこえてきたえることが必要だといわれるが、体をこわしてしまっ

ては、勝つことはもちろん、好きなスポーツさえも続けられなくなる。

仲間と楽しみながら、適度にスポーツを行うことによつて、健康な体と心を保つようにすることが大切だ。

投書②(6月21日朝刊)

高校生 平野 健一 17

(東京都北区)

6月15日の朝刊にのっていた加東さんの投書を読みました。でも、ぼくは加東さんの意見とはちがう考えを持っています。

ぼくは、スポーツは勝利を求めてやるからこそよいのだと思います。そして試合に勝つためには、ある程度体に負担をかけてでも練習することが必要だと思

います。なぜなら、試合に勝ちたいからこそ、選手は練習を積んで体をきたえ、技術を進歩させることが

なスポーツでも、厳しい練習を通して、体のよりよい動かし方や新しいわざ、強い心身に付けられるのだと思

います。このようなものは得られないと思います。また、実際にいろいろな大会を見ても分かるように、試合に勝つことで、選手は大きな喜びや満足、名誉を得られる

選手は苦しい練習にもたえ、努力をし続けるのだと思

います。確かに、スポーツをやるときに体をこわすことがあるかもしれませんが、それはまちがった方法で練習をしたからだと思

「新聞の投書を読み比べよう」より(平成二十七年 東京書籍)

※次のページにも問題があります。

1 「勝利を求めてこそスポーツに意味が」という見出しがふさわしいと  
考えられるのは、**投書①**と**投書②**のうち、どちらでしょうか。

①、②のいずれかを一つ選んで書きましよう。

2 **投書①**には、「自分の実際の経験」が述べられている文があります。

その文の最初の五文字と、最後の五文字を書きぬきましよう。(句読点ふくみます。)

|  |
|--|
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |

、

|  |
|--|
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |

めあて 学習した漢字を読んだり書いたりできるようにしよう。

二次の——線部の漢字の正しい読み方を、ひらがなでいねいに書きましよう。

1 親を尊敬する。

|  |
|--|
|  |
|  |

2 仲間と討論する。

|  |
|--|
|  |
|  |

3 腹筋をきたえる。

|  |
|--|
|  |
|  |

4 激痛にたえる。

|  |
|--|
|  |
|  |

5 説明を補う。

|  |
|--|
|  |
|  |

三次の——線部のカタカナを、漢字でいねいに書きましよう。

1 よいセイセキを残す。

|  |
|--|
|  |
|  |

2 手をショウドクする。

|  |
|--|
|  |
|  |

3 ボウエキを始める。

|  |
|--|
|  |
|  |

4 品質をカンリする。

|  |
|--|
|  |
|  |

5 規則をモウける。

|  |
|--|
|  |
|  |